

医療とケアを問い直す、 てつがくカフェ、 はじめています。



「てつがくカフェ（café philosophique）」とは、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった遡行的な問い（哲学的な問い）を投げかけ、ゆっくりとお茶を飲みながら、他の参加者との〈対話〉をとおして自分自身の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。1990年代に、フランスの哲学者マルク・ソーテが、パリのバステュー広場にあるカフェで始めたのがきっかけとされています。

医療やケアの現場は、脳死からの臓器移植、安楽死・尊厳死、死の自己決定（権）などといった〈死〉を取り巻く場面で突き付けられる哲学的な諸問題にはじまり、出生前診断や遺伝子診断の是非、重症新生児の治療の差し控え・停止、胎児細胞の治療研究への利用、さらには体外受精や代理母といった〈誕生〉の場面でも私たちに多くの問いを投げかけます。また〈ケア〉においても、障害者への支援や介護、看取りなど他者の生活を支える営みの複雑さ、境界の曖昧さからくる様々な問題が横たわっています。そこでは、みずからの死生観をはじめ、人間観、宗教観など、様々な価値観の問い直しが迫られ、試されることになります。そういった点からすれば、いま、医学・医療（ケア）の現場では小手先の対応では到底解決できそうもない根本的な問いかけ、すなわち哲学的な思考が求められていると言っても過言ではありません。こうした課題に対して「哲学対話（てつがくカフェ）」という営みを通して一緒に考えてみませんか？今回は「〈ケア〉とは何か？」をテーマに、参加者の皆さんとともに考えます。哲学の知識は一切必要ありません。どなたでも自由にご参加いただけます。

テーマ：「〈ケア〉とは何か？」

〈ケア〉という営みは、医療従事者や家族がその対象者（患者）に対して行なうような、いわゆる医療福祉の現場に限定的なもののように捉えられがちです。しかも、それは〈ケアするもの〉から〈ケアされるもの〉へといった一方向的な関係性のようにイメージされがちです。しかし、そもそも〈ケア〉という営みは私たちの日常生活の随所で行なわれているものであり、ある意味において私たちの人間関係そのものの豊かさを下支えしてくれる営みとも言えます。もしかすると、〈ケア〉の本質はまさにそういったところにこそ潜んでいるようにすら思います。〈ケア〉の本質をいま一度根本的に問い直すことは、医療従事者に限らず、ケアに携わる私たちすべてにとって大変意味のある作業のように思われます。みなさま、是非ご参加ください。

渡邊ゆうき（福井大学医学部医学科3年）



- ◆ 実施日：2017年6月11日（日）
- ◆ 時間：14時30分～17時00分
- ◆ 場所：大学連携センターFスクエア（福井駅東口アオッサ7階）
参加無料、事前申し込み不要。
どなたでもご参加いただけます（途中退出も可能です）。

ファシリテータ：西村高宏（福井大学医学部 医学教育・倫理学分野）
ファシリテーション・グラフィック：近田真美子（福井医療大学 保健医療学部）
主催：てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」（福井大学地域貢献事業）
共催：福井大学医学部附属教育支援センター、てつがくカフェ@ふくmedi
問い合わせ先：ニシムラ（tanishi@u-fukui.ac.jp）